



手を伸ばして逃げるアユを追う。びしょ濡れでもへっちゃらさ



元気なアユ。美しい容姿はもちろんのこと、味も絶品

『ふるさとには、こんなにきれいな川があるんだよ』

清流で鮎と遊ぼう

鮎つかみ取り

根雨・8月14日

アユはふるさとの魚

8月14日、根雨のハローワーク駐車場横の水路で「清流で鮎と遊ぼう 鮎つかみ取り」が開かれました。これは、子どもたちに町のすばらしい自然とふるさとを大切にする心を育てたいと活動する「水と魚に親しむ会（生田正明会長）」が今年初めて企画しました。

各地で魚のつかみ取りが開

かれるこの時期。そのほとんどがニジマスやヤマメなどの溪流魚が主流。アユのつかみ取りはほかにはありません。アユにこだわった理由につ

いて「アユは清流日野川で育ち、私たちのふるさとを代表する魚。美しい姿と味は最高」と生田さん。

準備された長さ30㍎、幅50㍎ほどの水路で、地元や帰省した子どもたちがびしょ濡れになり歓声をあげてアユを追いかけてきました。その光景に地元の人には「にぎやかで良い。たくさんの子どもの姿が見られてうれしい」と声を弾ませ、子どもも参加した家族は「水に入れる機会が良い。体験できない地区もあるので良いイベントだと思えます。びしょびしょになって遊べて楽しそう」と笑顔を見せました。

「予想以上の人出だった」と振り返ります。「当日は参加があるか不安だった。あつという間に定員の50人に達し、断った家族もある。子どもたちが喜んでくれて、やりがいがあった」と安堵の表情。また、「近所の人に声をか

多くの参加者でにぎわう会場



けると快く手伝ってくれて助かった」と地元の協力に感謝していました。

伝えたい、ふるさとの川

来年も開催したいと張り切るが、続けていくには若い人の力が必要です。「ゆくゆくは若者に中心となってもらいたい」と生田さん。日野町は若い人のアユ釣りも盛んなところ。若い力を巻き込み、ふるさとのきれいな川の魅力を伝えたいと考えています。

会場となった水路の水は板井原川から入ります。下水道が整備されたこともあり透明度は高い。生田さんたちの思いは「ふるさとに良い川があることを知ってほしい」ということ。「子どものとき味わった楽しさやアユの味を覚えていて、ふるさとに戻ってきてもらえたらうれしい」と活動がつながることを期待しました。



鮎の塩焼きの香ばしい香りは最高



元気なアユに歓声をあげて楽しむ

『この灯りは、地域住民の和の証し。ほっとする和やかなひとときを共に』

黒坂3区 手作り竹灯籠

黒坂・8月14日
15日

美しい光の道に感動

黒坂3区自治会（西古尚史自治会長）が、地域を元気づけよう、帰省した人に見てもらおうと昨年始めた「手作り竹灯籠」が、8月14日と15日、地区内に約150本が設置、点灯され、幻想的な雰囲気になりました。

まだ2年目の手作り竹灯籠は、すでに黒坂のお盆の風物詩。昨年は黒坂駅前通りが中心だったが、今年は各戸に1個配られ、黒坂3区内の大きな通りから細い通りまで設置されました。計画では150本だが、それ以上に感じるほど、美しい光の道は見る者を圧倒しました。

その取り組みが始まった経緯について自治会長の西古さ



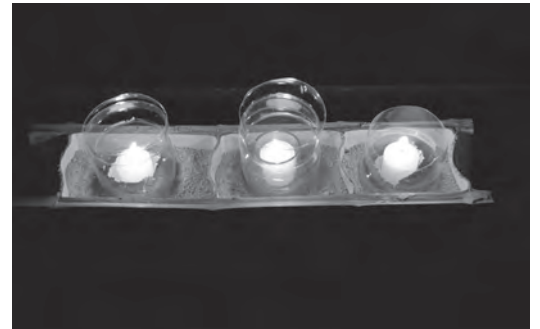
ろうそく一つ一つに思いを込めて灯す

んは「地区の企画委員で灯籠設置を計画。自然の物を使うことが提案され、実行委員会を立ち上げて、活動が始まった。60代が多い地区。30代など若い世代が中心になり土曜、日曜に竹を切り出し、細工を行い準備した」と当時を話します。

地域の定番行事に

この行事は地域を変えました。「これまで地域の中心だった60代に加え、若い世代を巻き込み、どの世代でも男女を問わず生き生きとした姿が見られるようになった」と西古さんは笑顔。

続けて「もともと3区は協力的なところ。自治会長が中心で、みんなが支える地域柄があったからこそ取り組めた



やさしい灯りに癒される

と思う」とこれまでを振り返ります。また、「自分ができることでも参加できることも、地域を挙げた行事になった理由の一つ。誰もが楽しみにして、帰省した人にも喜んでもらえることやりがいがある。3区の定番行事にしたい」と言葉に力が入っていました。この取り組みは、ほかの地区からもうらやましがられているそうです。

地域活性化は人の和から

今後については「長続きさせることが大事。3区では良いことは続けていくとみんなが同じ気持ちでいる。文化は継承していかないと意味がない。誰もができることで参加する体制で続けていける」と西古さんは確信します。



鏡山城址の石垣ライトアップ（奥）と手作り竹灯籠の共演

さらに「あとは人材を育てること。若い人たちに次々と伝えていきたい。和を広げることが大切。地域活性化は人の和から」と人と人の関わりがいかにか大事かを説きます。

黒坂全体への広がり期待

一番きれいに見えるのは駅前通り。休憩所を設け、多くの人が集まっていました。西古さんは「黒坂地区連合区や黒坂地区コミュニティ推進協議会を巻き込めば、自治会単位では難しくても取り組むことができる」と美しい光の道が黒坂全体につながる日を期待していました。その目は常に先をとらえています。

地域が一つにまとまっているからこそできる事業

